

ぴーぷる

年間20回以上の登山を計画 愛教大ワンダーフォーゲル部

20〜30キロにも及ぶ荷物を背負って山を登る。尾根からの眺めは最高だが、鎖場などの険しい岩稜も少なくない。雨や霧の中を行くこともある。それでも無事に戻って振り返れば、「全部が面白い出」と、部員らは屈託のない笑顔を見せる。

1963年に創部し、今年で53年目。現在、部員は1〜

れ。部長の山口雄大さん(3年)が「僕は歩いている時間が好き。森で遊んでいるような感覚かな」と話せば、副部長の石川陽也さん(同)は「登り切った達成感が魅力です」。女性は不慣れも多いが、森下あかりさん(2年)は「夜、大きなテントの中で、みんなと語り合うのが楽しい」と目を輝かせる。

険しい道のりもいろいろ出

4年の24人。このうち3分の1が女性だ。夏から秋にかけて集中的に登山を企画し、いくつかのパーティーに分かれて年間20回以上は山に出かけている。今年「挑戦」をスローガンにハイペースとい、駒ヶ岳、釈迦ヶ岳、笠ヶ岳など北アルプスや鈴鹿山脈を踏破してきた。

登山は危険と隣り合わせだが、何より「安全第一」を心掛けている。登山計画は日程やルートをはじめ、一日の歩行距離、装備、食料、交通費などを詳細に詰める。みんなで議論し、不備があれば練り直す。登山のない日は10〜15本の2本ペットボトルをザックに入れて、トレーニングで洲原神社の階段を昇降している。部



北アルプスの笠ヶ岳杓子平に登った皆さん

員は教員志望が多い。一つ一つの入念な準備は社会勉強につながっている。

今年から8月11日が新しい国民の祝日「山の日」となった。山口部長は「この日はたぶん北アルプスを登ってますね。日本最後の秘境といわれる雲ノ平へ行く計画になっています」とにっこり笑った。